

棒針編みにおける編み図の読み取りに関する一考察

A Study on Reading Knitting Needle Charts

米田 紀子

Noriko Yoneta

要旨

棒針編みを学ぶ初期段階の課題として、編み図の読み取り方と構造理解が挙げられる。初学者は編み地を裏面に返す際に必要な、記号の読み替え作業が分かりにくい傾向が認められる。初学者がよりスムーズに編み図の読み取り方を理解するために、文章表現による解説方法を導入した教授法を提案する。本稿では次の手順で研究を行った。まず、英語の文章による編み方の解説方法を取り上げ、編み図とどのような違いがあるのか比較し、双方の長所・短所をまとめた。その結果、これらは互いの欠点を補い合う特性を持っていることが分かった。次に、これまで文化学園大学現代文化学部国際ファッション文化学科における編み物の授業において、編み図および文章解説、双方の表記を経験した学生へのアンケート調査を実施した。その結果、編み図を支持した学生においても文章による解説を分かりやすいと感じていることが分かった。それとともに英語への苦手意識がある学生も多いことが分かった。以上の結果から、編み図の理解を助けるための教授法の提案において、文章による解説を学習のどの段階に導入することが望ましいか判断するための指針を得たので報告する。

●キーワード：編み物 (knitting) / 教授法 (teaching methods) / 編み図 (chart)

I. はじめに

編み物は編み目（ループ）が連続することによって作られ、その主な特性としては、伸縮性、保温性、ドレープ性が挙げられる。また、減し目や引き返し編みといった技法によりさまざまな平面や立体にも成型可能で、縫い代なしで筒状の形をつくることができる。これらは、1本の糸がループ状に連続していくという編み物独特の構造に起因すると言える。この編み物独特の構造が、編み目に可変性・多様性をもたらす布帛とは違った性質を編み地に与えることができる。

文化学園大学現代文化学部国際ファッション文化学科（以後、本学科とする）では、編み物はファッション造形を学ぶ一環として選択科目に設定されており、布帛との性質や構造の違いを知り、相互理解を深めるうえでも有効であると考えられる。

本学科の授業では編み物の中でも特に手編みについての知識・技術習得を目指している。手編みの編み方を解説する方法で一般的に使用されているものには編み図が挙げられるが、棒針編みで往復編みを行う場合には、編み図の読み取りにおいて記号を読み替える必要がある。

しかし、初学者にとって記号の読み替えは難しいと感じることが多いようで、授業では編み図の読み取り方についての質問も多い。読み取り方を理解できていないために間違ってしまうケースも多く見受けられ、初学者にとって分かりにくい傾向が認められる。

海外では編み図のほかに文章で編み方を説明するという方法が使用されており、この方法では裏面の読み替えは必要ない。

本学科では英語教育にも重点を置き、基盤であるファッション造形において英語を使用した授業を導入しているため、編み物の授業においても洋書の読み方について触れさせている。そのため学生は、編み方の解説方法について編み図と文章表現の両者を経験してきたが、文章表現による解説がわかりやすいとその有効性を支持する声もあった。しかし、編み図による指導と、文章表現による編み方解説を利用した指導は十分に体系化されるには至っていない。

また、学習の個別化・最適化による教育の強化という観点から、実習における編み方の説明方法としてホームページを用いた研究¹⁾は行われているが、表記方法に関

する研究は見当たらない。

そこで、本研究では、本学科における授業での経験や実績を基に、初学者がスムーズに編み図の読み取り方を理解するために、文章表現による編み方解説の導入を提案し、導入の段階や方法についての指針を得ることを目的とした。

Ⅱ. 編み図の構造と文章表現との比較

1. 棒針編みについて

手編みには棒針編み、鉤針編み、アフガン編みなどがある。棒針編みとは、先端のとがった棒状の編み針を使用し、1目ずつ糸を引き出し編み針にかけて編み進めていく方法で輪編み、往復編み、円形編み、袋編みなどがある。棒針編みの基礎となる編み方には、表編みと裏編みがあり、その組み合わせによりさまざまな編み地を編成できる。

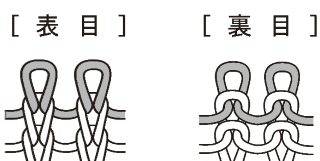
2. 編み方の解説に関する表記方法

(1) 編み図

編み方を解説する方法として一般的に使用されているものに編み図がある。日本編物検定協会²⁾によるとJIS(日本工業規格)により定められた編目記号³⁾を用いて編み方を解説したものを編目記号図としているが、出版社や書籍によってこれを編み図、記号図、符号図などとしている。また、作図によって導き出された輪郭線に編み地、目数・段数、幅・長さ、編み目の増減などの指示がなされた図のことを作図、製図、編み方図などと呼んでいる。日本ではこれらの併用によって編み方の説明がなされているものが多いが、呼び方が明確に統一されていないため、本稿では前者を編み図、後者を作図とした。

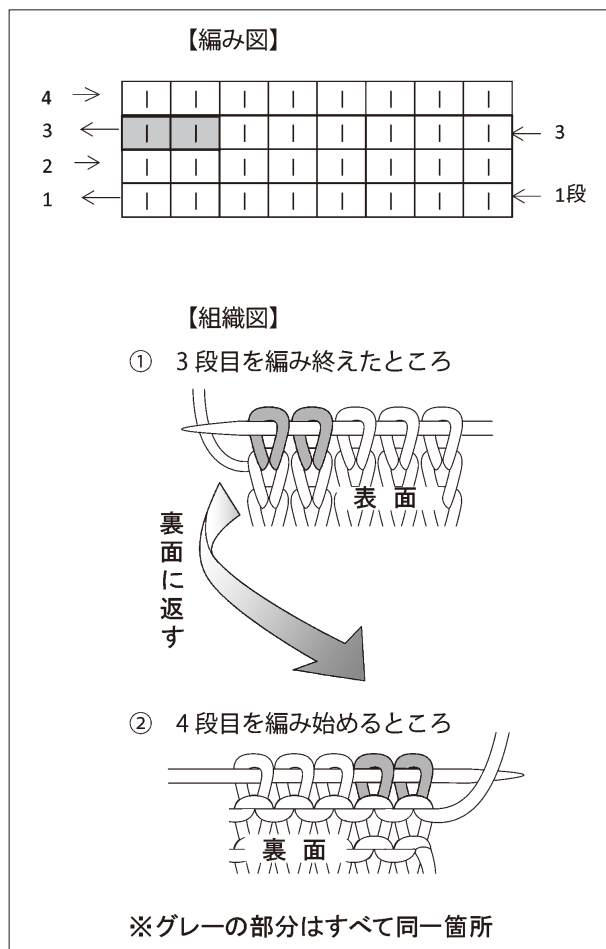
棒針編みにおいて往復編みで裏面を編む際には記号の読み替えをしなければならないが、その必要性については、まずは編み目がどのように成り立っているかを理解しておく必要がある。

図1は表目と裏目がどのような関係性であるかを表したもので、表面で表目を編んだ場合、裏面から見た編み目は裏目になる。逆も同様のことが言え、表編みと裏編みは表裏一体の関係にあることが図からも分かる。



[図 1 表目と裏目の関係性]

次に編み図の表す状態を理解しなければならない。編み図は、編み地を出来上がりの状態で表面から見た編み目を表している。



[図 2 編み図の表す状態]

編み図は図2の矢印の指す方向に従って順に読み取っていく。組織図はこれから4段目を編む状態を表しており、偶数段では編み地を裏面に返している状態となる(図2、②)。編み地は、この状態で右から左方向へ編み進めるが、このとき編み図は左から右方向へ読み進める。編み図は表面で表目になるよう指示しているので、記号を読み替え、裏編みをしなければならない。このように編み地を表面、裏面と1段ごとに持ち替えて編む方法を往復編みと言い、この方法を使用する場合、裏面を編むときに頭の中で記号を読み替えなければならない。

(2) 文章表現

編み方を解説する表記方法として、編み図の他には文章表現によるものが挙げられ、海外で多く使用されている傾向がある。また、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションやニューヨーク州立ファッション工科大学

近年では、落合⁴⁾や林⁵⁾などによってパターンによる表記が日本でも見られるようになってきた。また、インターネット上で英語パターンを公開、購入、共有できる「Ravelry」⁶⁾などのサイトも発達してきた。

(1) 模様編み

本項では実際に編み図とパターンの具体的な例を挙げ、双方の編み方の解説方法にどのような違いがあるかを比較し考察する。

略語	英語	日本語	編目記号 (JIS)
K	knit	表編み メリヤス編み	丨
P	purl	裏編み	—
k2tog	knit 2 together	左上 2 目一度	∟
pssso	pass slipped stitch(es) over	右上 2 目一度	∟
yo	yarn over	かけ目	○
kb	knit stitch in row below	引き上げ目	∩
co	cast on	作り目	
bo/co	bind off/cast off	伏せ目	
st(s)	stitch(es)	編み目	
	row(s)	段	
RS	right side	表面	
WS	wrong side	裏面	
alt	alternately	交互に、1 段おきに	
cont	continu(e) (ing)	継続、続ける	
rep	repeat	繰り返す	
St st	stocking stitch	メリヤス編み	
G/GS/g-st	garter stitch	ガーター編み	
Rib	ribbing	ゴム編み	

[illegible]

Co: Multiple of 17sts.

Row1: K to end.

Row2 and every foll alt row P to end.

Row3: K4, (k2tog,yf) 2times, K1, (yf,psso) 2times, K4

Row5: K3, (k2tog,yf) 2times, K3, (yf,psso) 2times, K3

Row7: K2, (k2tog,yf) 2times, K5, (yf,psso) 2times, K2

Row9: K1, (k2tog,yf) 2times, K7, (yf,psso) 2times, K1

Row11: (k2tog,yf) 2times, K9, (yf,psso) 2times.

Row12: P to end.

Rep 3–12 rows.

作り目:17目の倍数

1段目:すべて表編み

2段目以降の偶数段はすべて裏編み

3段目:表目4、(左上2目一度、かけ目)2回、表目1、(かけ目、右上2目一度)2回、表目4

5段目:表目3、(左上2目一度、かけ目)2回、表目3、(かけ目、右上2目一度)2回、表目3

7段目:表目2、(左上2目一度、かけ目)2回、表目5、(かけ目、右上2目一度)2回、表目2

9段目:表目1、(左上2目一度、かけ目)2回、表目7、(かけ目、右上2目一度)2回、表目1

11段目:(左上2目一度、かけ目)2回、表目9、(かけ目、右上2目一度)2回

12段目:すべて裏編み

3段目から12段目を繰り返す

「図6 穴あき模様：日本語パターン」


図4の編み図では、偶数段は表目である。しかし、裏面に返す段では記号を読み替えるので、偶数段ではすべて、裏編みをするということになる。

そこで、図5の英語パターンによる表記を表1の表記一覧と照らし合わせて読み、日本語に変換すると、図6のようになる。パターンではすでに記号を読み替えて表記しているため書かれた作業をするだけでよい。

（2）作品制作

図3～6で示した双方の編み方の説明方法はひとつの規則的な模様を表したものである。しかし、セーターなどの作品を制作する上では、別の特徴が認められる。

Monte Carlo



leave at front of work, K6, then K6 from cable pin.

CABLE PANEL (18 sts)
Row 1 – (RS), K18.
Row 2 – P18.
Rows 3 to 6 – As rows 1 and 2, twice.
Row 7 – K6, C12F.
Row 8 – As row 2.
Rows 9 to 14 – As rows 1 and 2, 3 times.
Row 15 – C12B, K6.
Row 16 – As row 2.
These 16 rows form Cable Panel.

SWEATER (Worked in one piece, starting at front hem edge)
With 5 mm (USA 8) circular needle, cast on 100 [104, 110, 114, 120, 124] sts.
Working backwards and forwards in rows, not rounds, cont thus:
Row 1 – (RS), K32 [34, 37, 39, 42, 44], P4, K4, P4, K12, P4, K4, P4, K to end.
Row 2 – P32 [34, 37, 39, 42, 44], K4, P4, K4, P1, M1 (by picking up horizontal loop lying before next st and working into back of it), (P2, M1) 5 times, P1, K4, P4, K4, P to end (108 [110, 116, 120, 126, 130] sts).
Patt thus:
Row 1 – (RS), K32 [34, 37, 39, 42, 44], P4, K4, P4, work next 18 sts as row 1 of Cable Panel, P4, K4, P4, K to end.
Row 2 – P32 [34, 37, 39, 42, 44], K4, P4, K4, work next 18 sts as row 2 of Cable Panel, P4, K4, P4, P to end.
These 2 rows form patt.
Working appropriate rows of Cable Panel, cont in patt until Front meas

32 [33, 33, 34, 34, 35] cm, ending with RS facing for next row.
Shape for sleeves
Cast on 80 [90, 92, 92, 94] sts at beg of next 2 rows
(286 [290, 300, 304, 310, 318] sts).
Next row – (RS), P18, K4, P4, work next 18 sts as row 1 of Cable Panel, P4, K4, P4, patt to last 56 sts, P4, K4, P4, work next 18 sts as row 1 of Cable Panel, P4, K4, P18.
Next row – K18, P4, K4, work next 18 sts as row 2 of Cable Panel, K4, P4, K4, patt to last 56 sts, K4, P4, K4, work next 18 sts as row 2 of Cable Panel, K4, P4, K18.
These 2 rows form patt.
Working appropriate rows of all Cable Panels, cont in patt until work meas 14.5 [14.5, 15.5, 15.5, 16.5] cm from Sleeve cast-on edge, ending with RS facing for next row.
Shape neck
Next row – (RS), patt 125 [126, 131, 132, 135, 139] sts, turn and work this side first.
Dec 1 st at neck edge of next 3 rows, then on foll 4 alt rows (118 [119, 124, 125, 128, 132] sts).
Work 3 rows, ending with WS facing for next row.
Cast on 4 sts at beg of next row (122 [123, 128, 129, 132, 136] sts).
Slip these sts onto a holder but do NOT break yarn. Set this ball of yarn to one side.
With RS facing, rejoin new ball of yarn to rem sts, cast off centre 36 [38, 38, 40, 40, 40] sts dec 6 sts evenly across top of Cable Panel, patt to end.

To fit bust
81 86 91 97 102 107 cm
32 34 36 38 40 42 in

K32 [34, 37, 39, 42, 44],

① To fit bust
81 86 91 97 102 107 cm
32 34 36 38 40 42 in

Actual size
100 104 110 114 120 124 cm
39½ 41 43½ 45 47 49 in

Finished length
52 53 54 55 56 57 cm
20½ 21 21½ 22 22½ 23 in

Sleeve length to underarm
42 42 43 43 43 44 cm
16½ 16½ 17 17 17 17½ in

Jaeger Albany (276)
10 11 11 12 13 14 50 gm

Quantities of yarn are approximate as they are based on average requirements. Check actual yarn colour – as printing may not match yarn exactly.

5 mm (UK 6/USA 8) circular needle.
Cable pin.

Tension
20 sts and 25 rows to 10 cm (stocking st) on 5 mm (USA 8) needles or size needed to achieve stated tension.

For notes and abbreviations, see information page.

④ SPECIAL ABBREVIATIONS
C12B = slip next 6 sts onto cable pin and leave at back of work, K6, then K6 from cable pin.
C12F = slip next 6 sts onto cable pin and

〔図7 セーターの編み方：英語パターン〕

図7は、セーターの編み方を説明したもので（一部抜粋）⁷⁾ 図8はその前身頃部分を筆者が作図に変換したものである。

図7の①②の部分はサイズ展開を表した箇所のひとつで図9はそれらを抜粋し、まとめた図である。“To fit bust”の部分には胸囲が示されており、全体に亘り、サイズ展開の部分とリンクしている。例えば、胸囲が81cmの人は表目 32 目、86cmの人は表目 34 目を編むように指示がある。

To fit bust							
81	86	91	97	102	107	cm	
32	34	36	38	40	42	in	
K32 [34, 37, 39, 42, 44],							

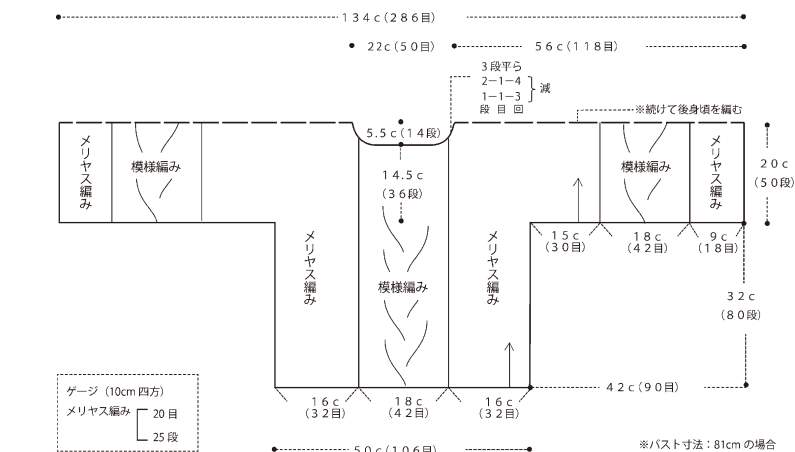
〔図9 サイズ展開を示す一例〕

このようにサイズ展開があることはパターンの特徴とも言える。ただし、これらのサイズ展開は提示されたゲージでのみ有効である。ゲージとは編み地の 10cm 四方に入っている目数・段数を示すものであるが、パターンの指定するゲージに合わせるための試し編み、編み針の選定は必須である。一方、編み図・作図では、多くの場合サイズ展開されていないため各個人のゲージに合わせた計算が必要となる。どちらにしても試し編みを行い、ゲージをとる必要があるが、その後、計算をするか編み針をゲージに合わせるように調節するかということになる。

また、図10（図7③の拡大図）のように、パターンでは長さのみを提示し、段数の指定はしていない。

cont in patt until work meas
14.5 [14.5, 15.5, 15.5, 16.5, 16.5] cm
from Sleeve cast-on edge, ending with
RS facing for next row.

〔図10 段数を指定しない表現〕



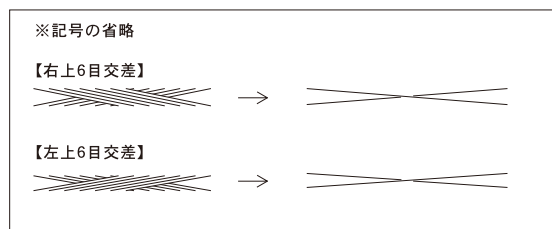
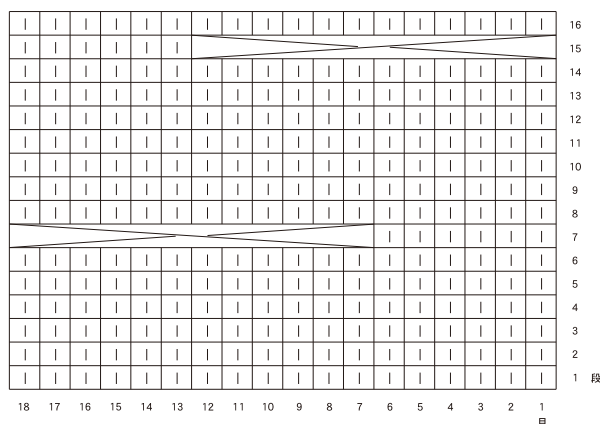
〔図8 セーターの編み方：作図〕

パターンは制作者に希望のサイズを委ねることで、サイズの決定権が制作者にあることを自覚させている。これらは一見当たり前のことのように思うが、日本の作図には長さの表記とともに目数・段数が明確に書かれているため（図8参照）、この指示通りに編めば見本のように仕上がるといった思い込みにつながる恐れがある。しかし、実際には使用する糸、編み針、編み手によって仕上がり寸法は全く違うものとなる。

図11は、図7④の部分拡大したもので、セーター中央部、および袖口に位置する縄編みの編み方を抜粋し、それを筆者が編み図に変換したものである（図12）。

SPECIAL ABBREVIATIONS	
C12B	= slip next 6 sts onto cable pin and leave at back of work, K6, then K6 from cable pin.
C12F	= slip next 6 sts onto cable pin and leave at front of work, K6, then K6 from cable pin.
CABLE PANEL (18 sts)	
Row 1	– (RS), K18.
Row 2	– P18.
Rows 3 to 6	– As rows 1 and 2, twice.
Row 7	– K6, C12F.
Row 8	– As row 2.
Rows 9 to 14	– As rows 1 and 2, 3 times.
Row 15	– C12B, K6.
Row 16	– As row 2.
These 16 rows from Cable Panel.	

〔図11 縄編み部分：英語パターン〕



〔図12 縄編み部分：編み図（JIS）〕

“SPECIAL ABBREVIATIONS”はこの作品にのみ特別に使用する略語やテクニックについて解説する箇所である。ここでは縄編みの手順について記載し、縄編み針を編み地のどちら側に倒し交差させるかなど詳細に説明し、C12B、C12Fといった略語に置き換えている。パターンには繰り返す柄の最小単位を編み図として載せているものもあるが、編目記号（JIS）のように統一された表記ではなく、書籍や出版社、デザイナーによって使用する記号が異なるため、その都度記号を把握しなければならず、わずらわしさを感じさせる。また、パターンは紙面のほとんどが文字で埋められているため、説明文を読み取る気力を欠きやすい。

以上、双方を比較した結果を以下表2にまとめた。

〔表2 編み図（JIS）とパターンの長所・短所〕

	長 所	短 所
編み図（JIS）	<ul style="list-style-type: none"> ・表記方法、使用する記号が統一されている ・柄や出来上がりの状態を想像しやすい ・縄編みなど柄の規則性を把握しやすい ・難易度が推測しやすい ・上下段の関係性が把握しやすい ・出来上がりの編み目の状態が簡略化して表記されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏面の読み替えが必要・面倒 ・サイズ展開がない
パターン	<ul style="list-style-type: none"> ・裏面の読み替えが不要 ・書いてある通りに編めばよい ・サイズ展開がある ・制作者の意志に任せた自由度の高い表記 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像が把握しにくい ・出来上がりの柄が想像できない ・難易度を推測できる材料はほぼ写真のみ ・書き手によって表現が異なる

表2を見ると、編み図が編みあがった結果の状態を表しているのに対し、パターンは編む工程を表現しており、これらは互いの欠点を補い合う特性を持っている。

Ⅲ. 編み図と英語パターンに関するアンケート調査

1. 目的

現在、本学科の手編みの授業には、ファッションコーディネート演習の一環として設けられた初級ニット、上級ニット（担当教員：熊野和子）がある。これらは基本的にグレード制をとっているが、初級・上級ともに、棒針編み、鉤針編みの習得を主としている。まず、基礎編みをグレードに応じた内容で行い、次に自由作品制作の

課題へ移る。初級ニットでは、編み図での習得を主とし、英語パターンについては触れていない。一方、上級ニットでは、作図の方法や英語パターンについても教授している。

平成23年度からの上級ニット履修者は、編み図および英語パターン双方の読み取りを経験しており、毎年授業最終日に行っている授業改善のためのアンケートにおいても、英語パターンに更なる興味を持つ学生も少なくない。また、手編みがあまり得意ではないという学生に、英語パターンと編み図のどちらが分かりやすいかと質問したところ、英語パターンの方が分かりやすいという声が多かった。

そこで、双方の読み取りを経験した学生が、それぞれの表記に対してどのように感じているか、どこが分かりにくい点なのかを調査し、編み図の理解を助けるための教授法に反映させる目的でアンケート調査を行った。

2. 方法および内容

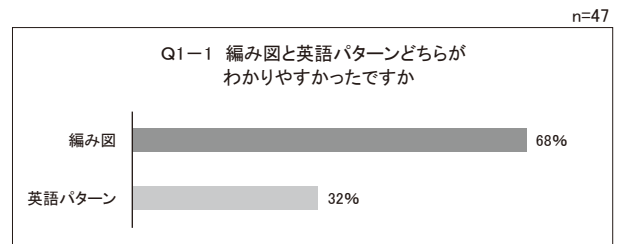
編み図および英語パターン双方の読み取りを経験している平成25年度ファッションコーディネート演習－上級ニットの履修者47名を被調査者とし、前期授業最終日の平成25年7月に調査を行った。調査は、授業の始め、学生の集中力がある時間に行い、アンケート調査の前に本研究の目的を提示した。

設問は3項目に分け、それぞれの設問に対し理由の回答を求めた。Q1では編み図と英語パターンのどちらが分かりやすいか、また、その理由については選択肢を用意した。Q2では今後、英語パターンについてもっと学びたいか、Q3では編み図と英語パターンの良い点を混合させたものがあればいいと思うか、という設問を用意し、Q2、Q3については理由を求める部分を自由記述とした。

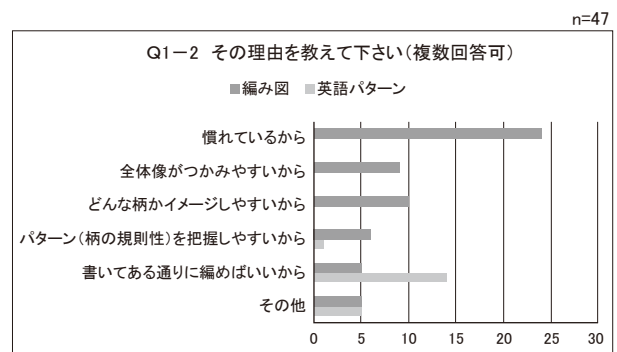
3. アンケート調査結果および考察

以下、アンケート調査を集計したものであるが、Q2、Q3はQ1の編み図、英語パターン、それぞれを支持した回答者に分けて集計を行った。

Q1の編み図と英語パターンのどちらが分かりやすいか(図13)、という設問では、編み図が68%、英語パターンが32%と、編み図を支持する学生が7割近くを占めた。その理由については主に慣れているから、という回答が多数で、それ以外の回答は全体的に視覚的要素において分かりやすさを感じている傾向にあった(図14)。

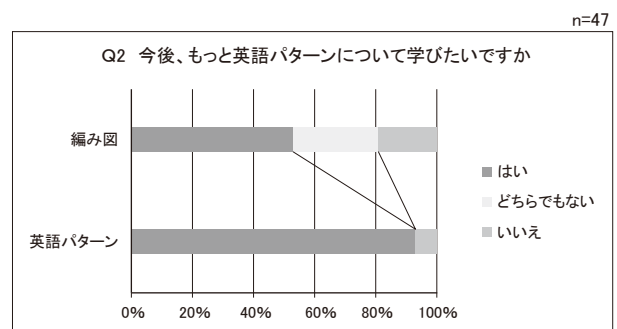


〔図13 授業において分かりやすかった表記方法〕



〔図14 編み図もしくは英語パターンを支持する理由〕

Q2の今後、英語パターンについてもっと学びたいか、という問いに対して“はい”と回答した学生は、編み図の支持者が53%、英語パターンの支持者が93%であった(図15)。



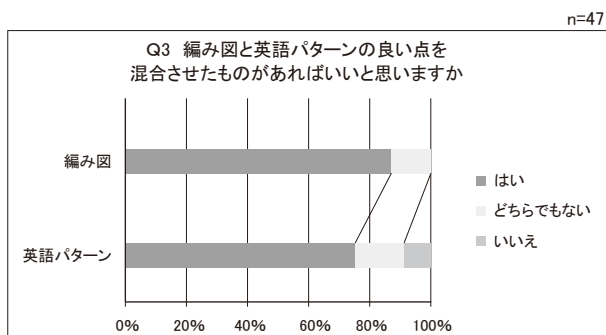
〔図15 英語パターンへの関心〕

“はい”と回答した理由について、編み図を支持した学生は「慣れれば英語パターンの方が分かりやすい」「図上で目数を数えなくてもよいので楽」という意見や、「洋書を読めるようになりもっと幅を広げたい」というような知識・技能の向上を目的とする内容の回答が多かった。一方、英語パターンを支持した学生は分かりやすいとの意見が71%と多数であった。

“いいえ”と答えた学生の多くはどちらの支持者も「英語が苦手」という理由であった。その他、「複雑なものになると、英語パターンは分かりにくそう」という懸念の声もあった。英語パターンは、一見してみるとペー

ジのほとんどが英文で埋められているため、英語に苦手意識のある学生や、編み図に慣れた手編みの経験がある学生にとっては、受け入れ難いようである。

Q3の編み図と英語パターンの良い点を混合させたものがあればいいと思うか、という問いに対しては編み図の支持者が87%、英語パターンの支持者が75%と両者とも“はい”の回答が多数であった(図16)。



〔図16 双方の長所を融合させた表記の需要〕

アンケート調査の結果から、編み図が分かりやすいと感じる学生が多く、その要因は主に編み図に慣れていることと、視覚的要素において優位性を示していることが分かった。しかし、編み図を支持する学生の過半数が、英語パターンについても分かりやすいと感じていることや、知識的な面で関心を持っていることが分かった。

英語パターンを分かりやすいと感じる理由は、書いてある通りに編めばよい、つまり裏面の読み替えが不要であるという点が多く挙げられたが、一方で英語に苦手意識がある学生が多いことも分かった。さらに、2つの利点を生かし、融合させたテキストを望む声が全体で79%あることが分かった。

IV. パターンを導入した編み図の読み取りに関する教授法の提案

1. 概要

現在の日本の書籍は、編み図や作図によって編み方の説明をされたものがほとんどである。また、海外においても最小単位の繰り返しを示す部分では編み図が記載されているものもある。これらの多くは日本の編み図と同様に編み地を表面からみた状態であることが明記されており、国内外を問わず編み図の読み取り方を理解させることは必要である。

編み図は、慣れた人にとっては分かりやすい表現方法であるが、それとともに必要な記号の読み替えは、初学者にとって分かりにくい傾向がある。しかし、パターン

においてはその必要性がないため、初期の学習導入がスムーズ、かつ、初学者が読み替えによって生じるストレスのない表記方法であると考ええる。また、近年では学生の質も変化し、実習においてはこれまでよりもさらに段階的に説明を求められる傾向があり、編み方をひとつひとつ指示するパターンはこの点において有効であると考ええる。そこで編み図の理解を助けるために、パターンによる編み方の解説をひとつの段階として導入することを提案する。つまり、パターンの導入は、あくまで初学者のつまづきを軽減することを主たる目的とする。

導入方法として、裏面の読み替えが不要なパターンの構造を基軸としたテキストを作成する。アンケート調査では英語パターンに対して消極的な意見の学生のほとんどは英語を避ける傾向にあったため、基本の使用言語を日本語とした。ただし、図6からも分かるように、漢字表記であると字数が増え、紙面が複雑化するため、基本的な用語に関しては英語パターンの略語を使用する。同様の理由で段目の表記を省略、繰り返しの回数は“×”と表し、1段すべて同じ編み目の場合は、目数を表記しない。以下に凡例を示す(図17)。

【凡例】

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1:K | … 1段目:全て表編み |
| K1 | … 表編み1目 |
| (K1, P1) × 2 | … (表編み1目、裏編み1目)を2回繰り返す |

〔図17 凡例〕

パターンの導入は初学者により有効と考えるため、段階を3つに分け、初級ニットの基礎編みで取り入れることを提案する。詳細説明は次項で段階ごとに記す。

全ての段階において使用する毛糸、編み針は、編みやすいプレーンタイプの並太毛糸(適性とされる編み針はラベルによると6~7号とされているもの)を8号針で編ませる。8号針を選んだ理由として、初学者は編み目がきつくなりやすく、また、今後の自由作品に最も汎用性の高い編み針の太さであると考えられるためである。

2. 段階1

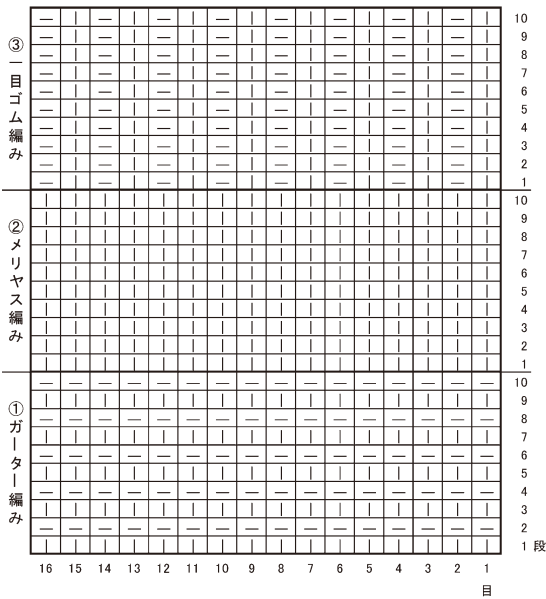
(1) 使用技法

表編みのみで構成されるガーター編み、表編みと裏編みが1段ごとに繰り返されるメリヤス編み、表編みと裏編みが1目ごとに交互に繰り返される1目ゴム編みと難易度の低いものから順に学ばせる。

(2) 表記方法：パターン
段階 1 でパターン（図 18）を導入する。

K = 表目 P = 裏目 作り目：16目
【①ガーター編み】 すべてKで10段編む
【②メリヤス編み】 1:K 2:P この2段を繰り返し10段編む
【③一目ゴム編み】 (K1、P1) × 8 これを繰り返し10段編む

[図 18 基礎編み：段階 1 パターン]



[図 19 基礎編み 段階 1：編み図 (JIS)]

メリヤス編み Stocking Stitch	ガーター編み Garter Stitch	ゴム編み Ribbing
Any number of stitches. Row1 : (RS) K to end. Row 2 : P to end. Rep these 2 rows.	Any number of stitches. Row1 : K to end. Rep this row.	Row1 : (RS) K1, [P1, K1] to end. Row2 : P1, [K1, P1] to end. Rep these 2 rows. ※Single ribbing

[図 20 基礎編み：段階 1 英語パターン]

編み図をはじめてから提示すると、技術習得と並行して編み図の読み取り方を理解しなければならないため混乱が起きやすい。そのため、この表記方法では編み図の読み替えて生じるつまずきや、ストレスがなくなり、その結果、表編み、裏編みの編み方を自分のペースで段階を踏んで習得できると考えられる。

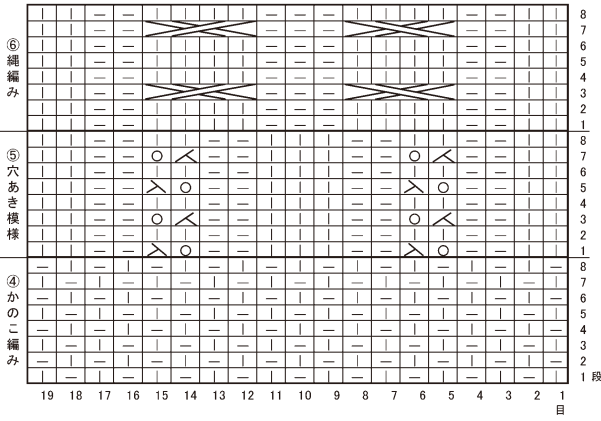
図 19 は図 18 での編み方の解説を編み図で示したものである。学生には図 18 の編み地を編み終えた状態で、図 19 の編み図による表記を提示し、対比させながら読み取り方と構造について解説する。また、英語パターンではどのように表記されるか一例を付け加え説明する（図 20）。

- (3) 習得技術・表記方法によるねらい
- ①表編み・裏編みを反芻させ、編み方を習得させる
 - ②編目記号 (JIS) の読み替えによるストレスをなくす
 - ③実習を通して、往復編みが表面、裏面を 1 段ごとに持ち替えて編むということを理解させる
 - ④編み地の構造を理解させる

2. 段階 2

(1) 使用技法
表編みと裏編みが上下左右とも交互に繰り返されるか
のこ編み、かけ目と減し目を組み合わせ、編み地に穴を
あけて模様をつくる穴あき模様、編み目を交差させて編
む縄編み（交差編みの一種）を習得させる。

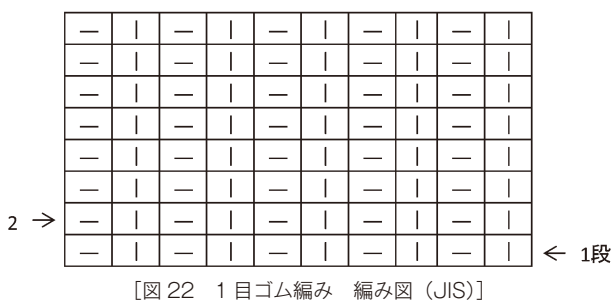
(2) 表記方法：編目記号 (JIS) を用いた編み図
段階 2 からは編目記号 (JIS) を用いた編み図（図
21）を使用する。段階 1 で編み方に慣れ、往復編みが表
面、裏面を 1 段ごとに持ち替えて編むということを体得
したところで、編み図の読み取り方を理解させる。



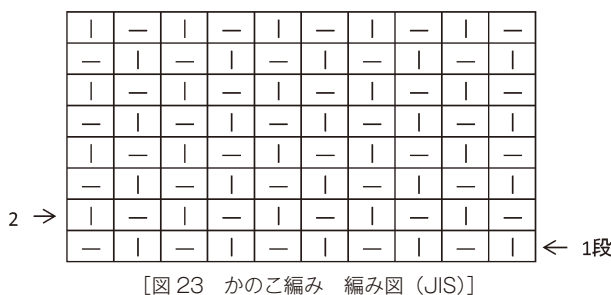
[図 21 基礎編み：段階 2 編み図 (JIS)]

編み図を理解できているかどうかは、かのご編みと1目ゴム編みがひとつの判断材料になる。ここで編み図の読み取りによる間違いの多い事例を示す。

図22、23を比べてみるとどちらも表編みと裏編みが交互に配列されていることが分かる。



〔図22 1目ゴム編み 編み図 (JIS)〕



〔図23 かのご編み 編み図 (JIS)〕

図22の1目ゴム編みは、規則的に正確に編めていれば表編み、裏編みの順で終わる。正しく理解できていれば、偶数段の頭は2の矢印で示される方向から読み取り、表編み、裏編みの順となる。しかし、図の意味を正確に理解していなければ記号をそのまま読んでしまい、結果、図23で示されるかのご編みになってしまう。ゴム編みの構造は、表目、裏目が規則的に交互に配列されており、縦列で見ると揃っていることである。一方、かのご編みは縦列でも表目、裏目が交互に配列されている。これは、編み図を見ると一目瞭然である。そのため、段階1の1目ゴム編みを終えた時点で、編み図によってこれらの構造をよく説明し、かのご編みとの区別をしっかりと理解させる必要がある。

(3) 習得技術・表記方法によるねらい

- ①編み図の読み取り方と構造理解を学ぶ
- ②編む順番や縦のループの関連性を理解させる
- ③編み図、編目記号 (JIS) の長所を理解させる
- ④かのご編みと1目ゴム編みの違い、構造を理解させる

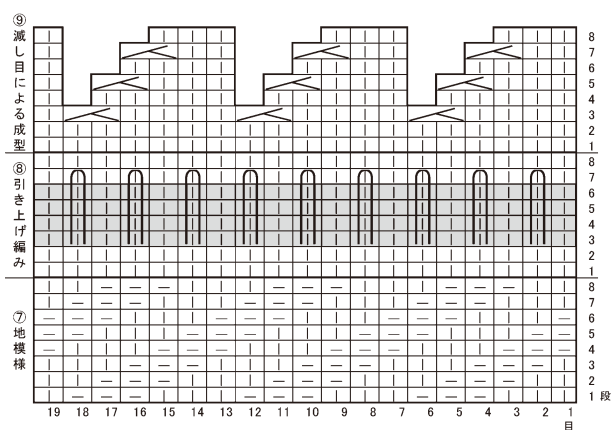
3. 段階3

(1) 使用技法

表編みと裏編みが3目ずつ斜めに走る地模様、編み目を引き上げて編む引き上げ編み、減し目によるダーツ処理を行い立体的な形にしていく編み方を習得させる。

(2) 表記方法：編み図・パターンいずれかを選択

編み図・パターンの両者を用意し、どちらか使いやすい表記方法を選択させ、習得させる (図24、図25)。



〔図24 基礎編み：段階3 編み図 (JIS)〕

K = 表目 P = 裏目 k2tog = 左上2目一度
作り目: 19目

【⑦地模様】

- 1: (K3, P3) × 3, K1
- 2: P2, (K3, P3) × 2, P2
- 3: K1, (P3, K3) × 3
- 4: K1, (P3, K3) × 3
- 5: P2, (K3, P3) × 2, K3, P2
- 6: (K3, P3) × 3, K1

7~8: 1~2をもう一度編む

【⑧引き上げ編み】

- 1~2: メリヤス編み
- 3~6: 別系に替えてメリヤス編み
- 7: (K, ※) × 9, K
- 8: P

※別系の下にある目に針を入れ別系をほどきK

【⑨減し目による成型】

- 1: K
- 2, 4, 6, 8: P
- 3: (K4, k2tog) × 3, K1
- 5: (K3, k2tog) × 3, K1
- 7: (K2, k2tog) × 3, K1

糸を10cm残して切る
とじ針に糸を通し、1目おきに目を通し2周する
目が落ちていないか確認し、糸を引き締める

〔図25 基礎編み：段階3 パターン〕

段階3では個人によって使い勝手が分かれやすいと考えられる技法を中心に選んだ。

(3) 習得技術・表記方法によるねらい

- ①編み図とパターン、両者の長所・短所を実習の中で学ばせる
- ②減し目によるダーツ処理を行うことで立体を表現できることを学ぶ
- ③自由作品制作の際の選択肢の拡充

V. おわりに

本稿では、棒針編みの初学者に編み図の読み取り方を習得させる方法の一環として、初学者が経験するつまづきの要素をひとつでも軽減するために、それぞれの欠点を補い合うことのできる編み図とパターンを導入した教授法を提案した。また、学習の初期段階において、英語パターンに触れさせることにより、その存在を認識させ、大まかな構成を学ぶことで、編み図の読み方や棒針編みの基本的な技法を習得した後に、パターンに触れる時の戸惑いを軽減させることも副次的な目的とした。

今回、編み図と英語パターンを比較し、アンケート調査を行うことにより得られた結果は、パターンの導入が学習のどの段階に適しているかを判断するひとつの目安となった。これらを基礎研究として今後、本稿での提案をもとに実践研究を行ない、効果の検証を行なった上で改善を加え、授業へ導入していくことが次の課題である。

さらに言えば、編み図とパターンの比較でも述べたように、編み図や作図はサイズに関する情報が十分とは言えないため、パターンと融合させることができればより

充実度を上げることができ、初学者のみならず、手編みの作品の制作全般に亘って有効なものだと考える。サイズについて編み図や作図とパターンの特性を踏まえた表記のあり方についても検討し、学生にフィードバックしていきたい。

本研究を進め、まとめるにあたりましては、本学科ファッションコーディネート演習－上級ニット－において英語パターンを導入された熊野和子先生にご指導いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

また、アンケート調査に関しまして、協力してくださった学生みなさまに感謝いたします。

[脚注・引用文献]

- 1) 勢田二郎、角田有紀、内田洋子：ホームページを用いた被服構成実習の試みⅡ―手編みセーターの製作― 山梨大学総合情報処理センター研究報告 ―The Bulletin of the YINS― Vol.3 1999
- 2) 公益財団法人日本編物検定協会は1963年に設立。編目記号の原案作成団体。
- 3) JIS L0201、編目記号
- 4) オチアイトクコ 『おしゃれな世界のニットレシピ』 株式会社ピー・エヌ・エヌ新社 2013
- 5) 林ことみ 『ニッティングレース』 文化出版局 2012
- 6) 「Ravelry」 <http://www.ravelry.com> 2013.10.30
- 7) JAEGER COATS West Yorkshire 2004 p18

[参考文献]

How to Knit Trafalger Square Publishing North pomfert 1999
ジュディ・プリテン 『手芸の百科』 文化出版局 1981
文化ファッション体系 アパレル生産講座④ 『ニットの基礎技術』 文化出版局 2006